
僕らの青。

山瀬浪覇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕らの青。

【NZコード】

N5477BA

【作者名】

山瀬浪霸

【あらすじ】

男子3人がほのぼのしている脱力系小説。

高校受験から始まり、高校へ入学した3人は・・・？

主に脱力、ときに熱く、ときに切ない（？）青春真っ只中なお話。

終わりの季節。

「おー、なにやつてんだ。」

屋上にいる時期としては少々肌寒い季節になつた。
もちろん屋上は立ち入り禁止だ。

「生徒会長さんじでじつしたんですかー。」

「てめえのことを探しに来たんだるーが。
サボつてねえで授業出やがれ。」

聞こえる声を無視して見上げた空は
雲ひとつないきれいな青色で
僕らをどこかへ連れだそうとしていたようだつた。

キーンゴーンカーンゴーン

「あーあ、鐘鳴つちまつた。」

「俺のことなんかほつといて授業出とけばよかつたじゃない。」

「おまつ・・・人がせつかく来てやつてんのに・・・。」

別にそんなこと頼んでないんだけどな、なんて言つたら
この短気な生徒会長さんをいつかせるだけなので言わないでおいた。

「大体お前は・・・」

お説教を邪魔するように開かれた銀色の扉。
そこには見慣れた顔がもう一人。

「謙太くん！ 梶くん！ やっぱりここにいた。」

「おー、絢。お前昼飯は？」

「持つてきますよー。一人の分もありますー。」

「さすが絢だねー。どつかの石頭とは大違い。」

「誰が石頭だばか。」

もう一度見上げた空はやつぱり青くて
それが、僕らのゴールへ近づいていたことを知らせていた。

終わりの季節。（後書き）

完全に自分の理想を書いただけの脱力系。

物書きっぽいことをするのか超久々なので色々おかしいところかもしれません。

僕の理想としては、なによりK.B.がいいなと思うわけです。
ああいうの見ると高校楽しそうだわー、ってなりますね。
入れるか分からぬですけれども・・・。

時間見つけてちょこちょこ書いていくのでよろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5477ba/>

僕らの青。

2012年1月14日23時48分発行